

半切四分の一に書く(2)

締切り 二月二十二日(必着)



神谷葵水先生書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことで、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×一七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 桃花含雨開

とうかあめをふくんでひらく

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤濁も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て、表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×一七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フェルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんので、どなたでも出品できます。ただし出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔解説〕

桃

李

栄

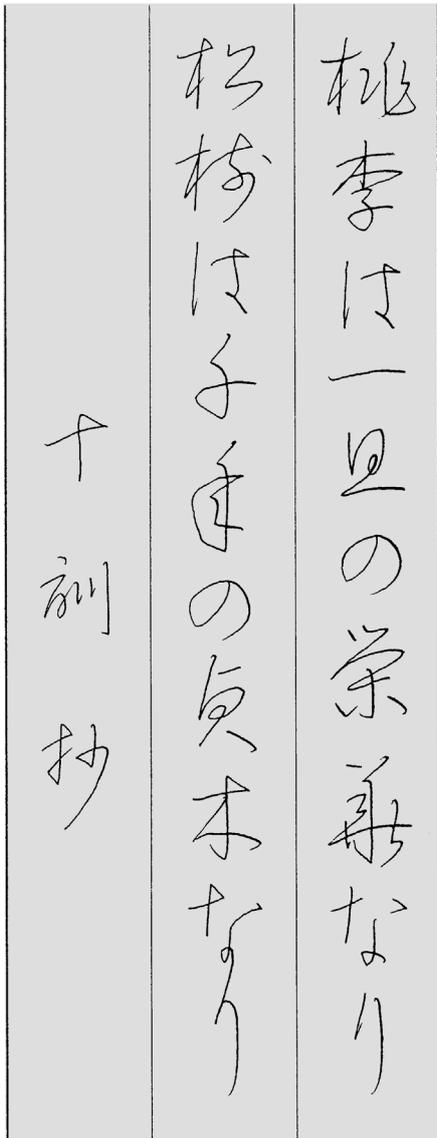
華

松

樹

貞

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。  
◎草書体は線と線の連なりを大切に、字形は総じてふところ広く、芸術性を高めるように書くことが大切。



おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

	次	行
	女	い
	も	の
	麗	美
	鹿	し
英	わ	し
国	い	い
の	い	者
の		は
諺		

おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

小ぶりに書く

◆3月課題予告(行書)

使わねば耗りて  
使えば増える物は  
智と力となり

▼教範・書範||楷書

▼師範||行草または草書

★行い:(書体||行書)

イギリスのことわざ

行動が美しいのは、その人の精神性の清さ、高さを表しています。言動が美しい人は容貌までも美しくみえるようになるのです。

第一印象や、外観上の美しさも大切ですが、それははかなく移ろいやすいものです。人間性こそが重要なのはいうまでもありません。

◆3月課題予告(楷書)

志定まれば  
気盛んなり  
吉田松陰

★桃李は:(書体||行草または草書)

「十訓抄」 鎌倉期の説話集

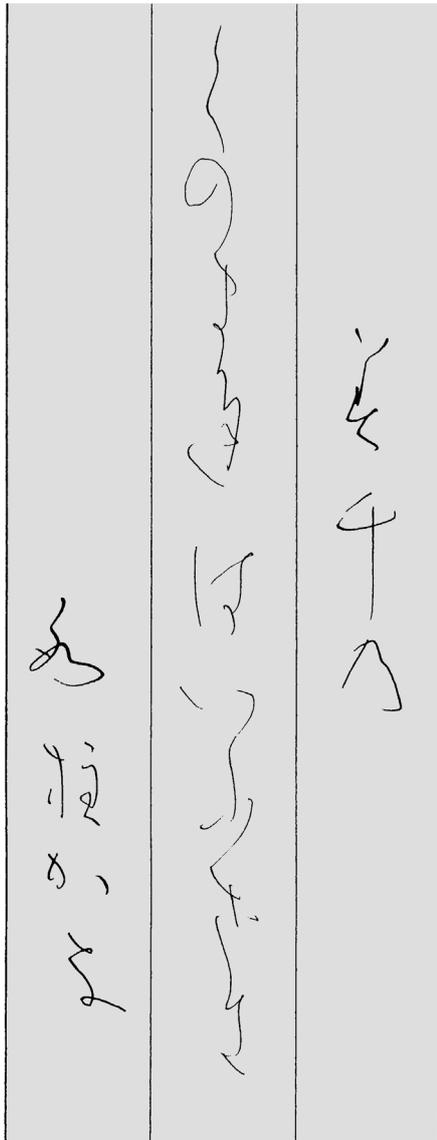
桃やすもは美しい花をつけますが、その栄華は短いものです。松は華やかな木ではありませんが、長きにわたり変わらぬ緑を保っています。一時だけ脚光を浴びることも一つの生き方ですが、地道にコツコツと生活すれば長く堅実な人生を送ることができます。

# 一般部かな課題

締切り 2月22日(必着)

準初段から六段まで

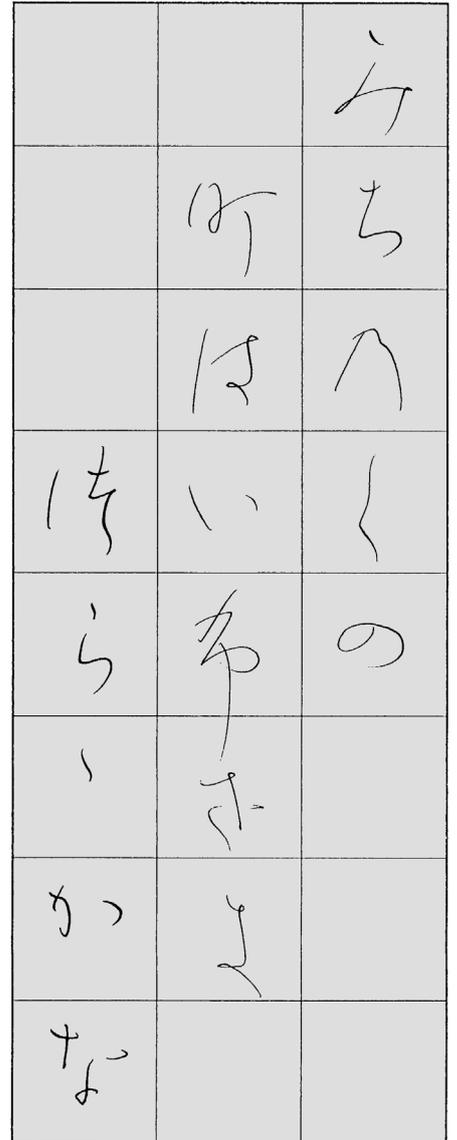
新入から1級まで



美千乃の町の町はいぶせき氷柱かな

美千乃の町はいぶせき氷柱かな

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おお みや しゅん ちやう  
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちやう  
大 宮 春 兆 書

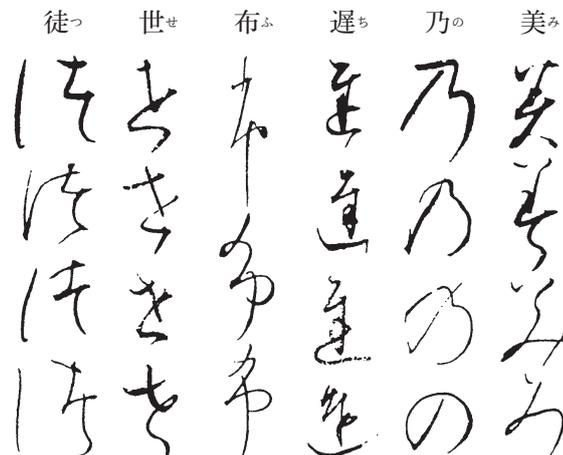
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

## ◆3月課題予告

あたゝかな雨がふるなり枯律

(正岡子規)



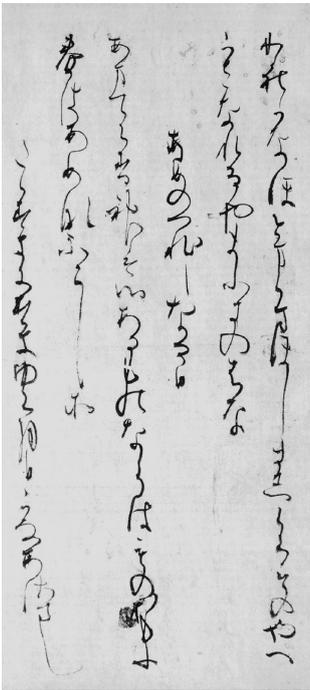
〔古筆参考〕

みちのくの町はいぶせき氷柱かな  
〔句意〕長く雪に覆われた東北の冬は、寒く厳しい。その暗く陰鬱で心晴れないみちのくの町の、低い家屋のひさしに氷柱が下がっている。そのきらりと光る清らかな輝きは、わずかに人の心を和ませ、明るくしてくれることである。

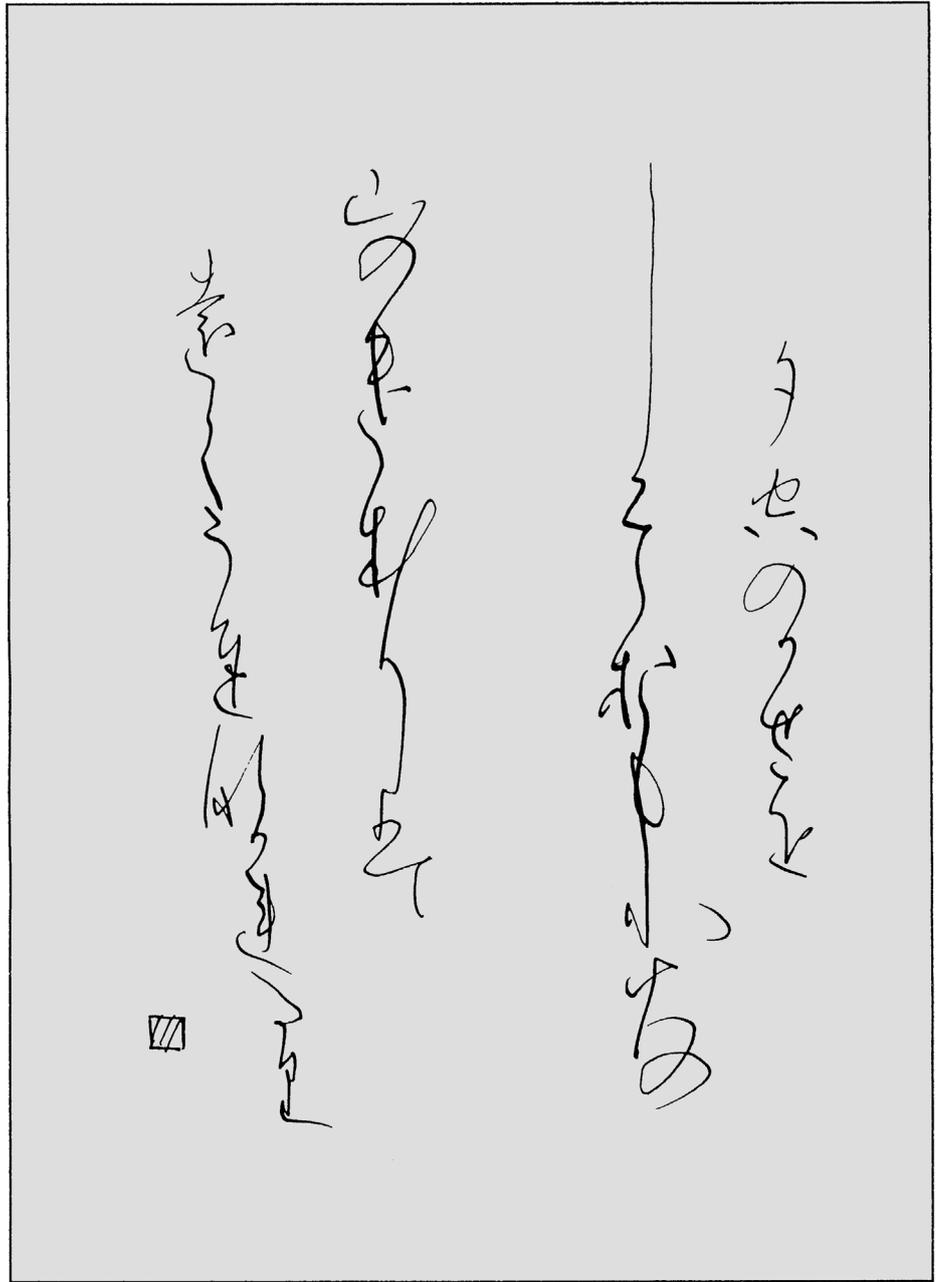
(山口青邨)

〔古筆参考〕

いずみしきぶぞくしゅうぎれ  
和泉式部続集切



締切り 二月二十二日 (必着)



築瀬舟香書

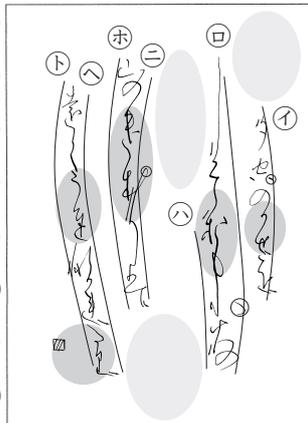
われかなほとまらまほしきしらくものやへ  
かさなれるやまふきはな

あめのつれくなる日  
あまてらす神も心あるものならばものおもふ  
春はあめなふらしそ

たすきにすぎゆく月日かなあさまし

夕空の風をしぞおもふ火の山の  
けむりは遠くうちながれたり  
〔歌意〕夕空を吹いている風のことだけ  
を、私は想像している。火山からた  
ちのぼる煙は、その風に吹かれて遠く  
はるかかなたへと流れてゆく。  
〔出典〕名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、①と⑪、①と⑫、①と⑬、①と⑭、①と⑮、①と⑯、①と⑰、①と⑱、①と⑲、①と⑳
- 行の中の密の動き(行の高まり)。
- 作品の間、大切。
- の位置、∟の方向大切。

和泉式部続集切とは

平安時代、藤原行成によって書かれたものと伝えられる。内容は書風が二つは分かれている為「和泉式部上巻切」「和泉式部下巻切」と呼称される。

上巻切は文字が小粒で円やか。

下巻切は文字が大きくおらかな運筆。

◆3月課題予告

うすべにに葉はいちはやく萌えいでて咲かむとすなり山ざくら花

締切り 2月22日(必着)

先日は娘の結婚式にお二人揃って  
ご出席賜り有難うございました。  
細やかながら心のこもった良い式  
だったとお言葉に、本人たちも  
喜んでおります。未熟な二人ですが  
今後共どうぞ見守って下さい。

先日は娘の結婚式にお二人揃って  
ご出席賜り有難うございました。  
細やかながら心のこもった良い式  
だったとお言葉に、本人たちも  
喜んでおります。未熟な二人ですが  
今後共どうぞ見守って下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

千利休は、従来のせいたくな茶道  
を、簡素で高雅な芸術に高めた。

鳥取県境港市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 2月22日 (必着)

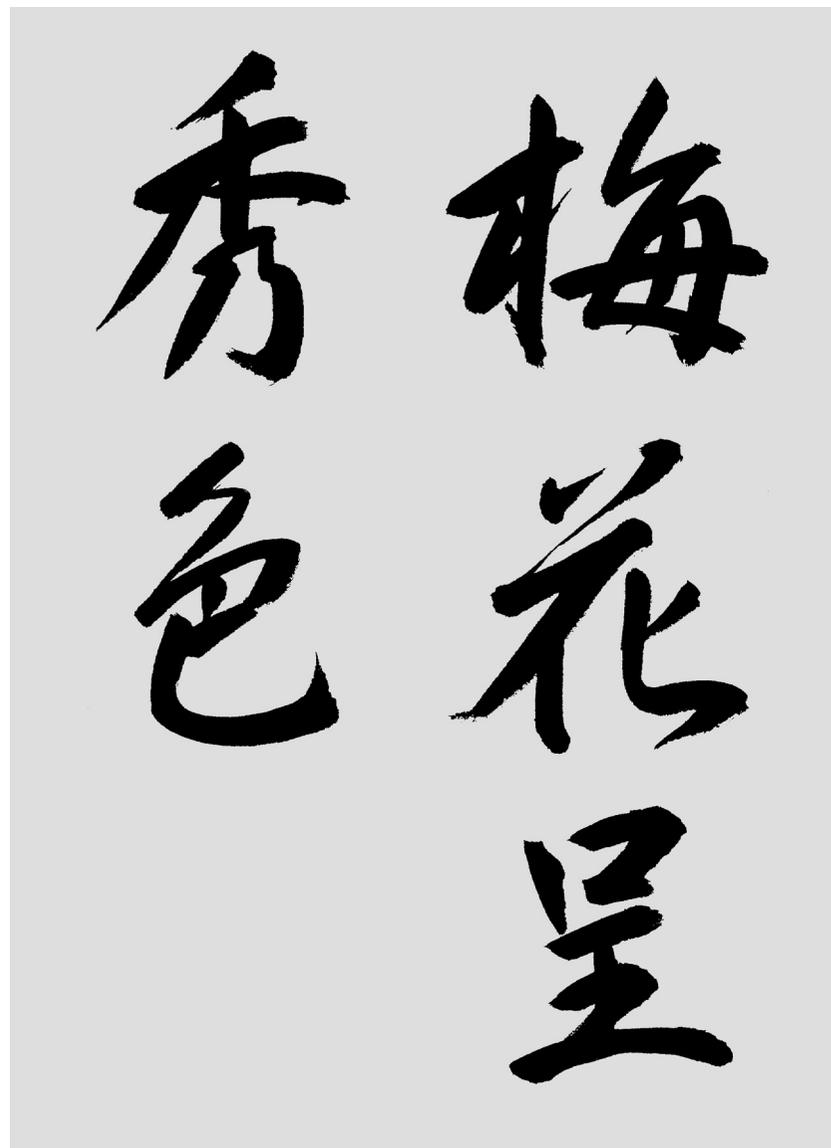


準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕集字聖教序 (672) 〔筆者〕王羲之法書より集字

〔読み〕(聖) 教は缺<sup>か</sup>るも全<sup>まつた</sup>きに復<sup>そう</sup>し、蒼<sup>せい</sup>(生は)



新入から1級まで (行書)

荻田蒼仙書

〔読み〕梅<sup>ばい</sup>花<sup>かしゅう</sup>呈<sup>しょう</sup>秀<sup>しよく</sup>色<sup>をていす</sup>

〔大意〕百花にさきがけて咲いた梅の花はすぐれた色を示している。



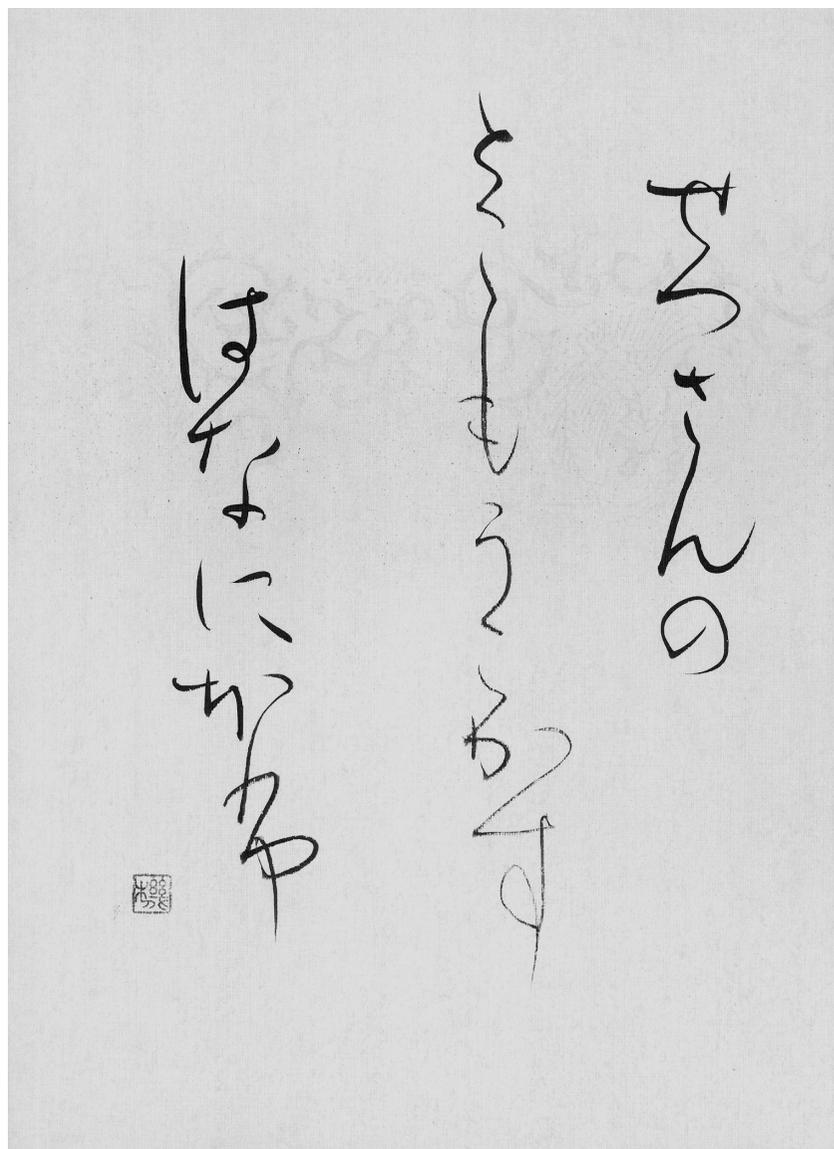
教  
缺  
而  
復  
全  
蒼

# 一般部毛筆かな課題

締切り 2月22日 (必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書



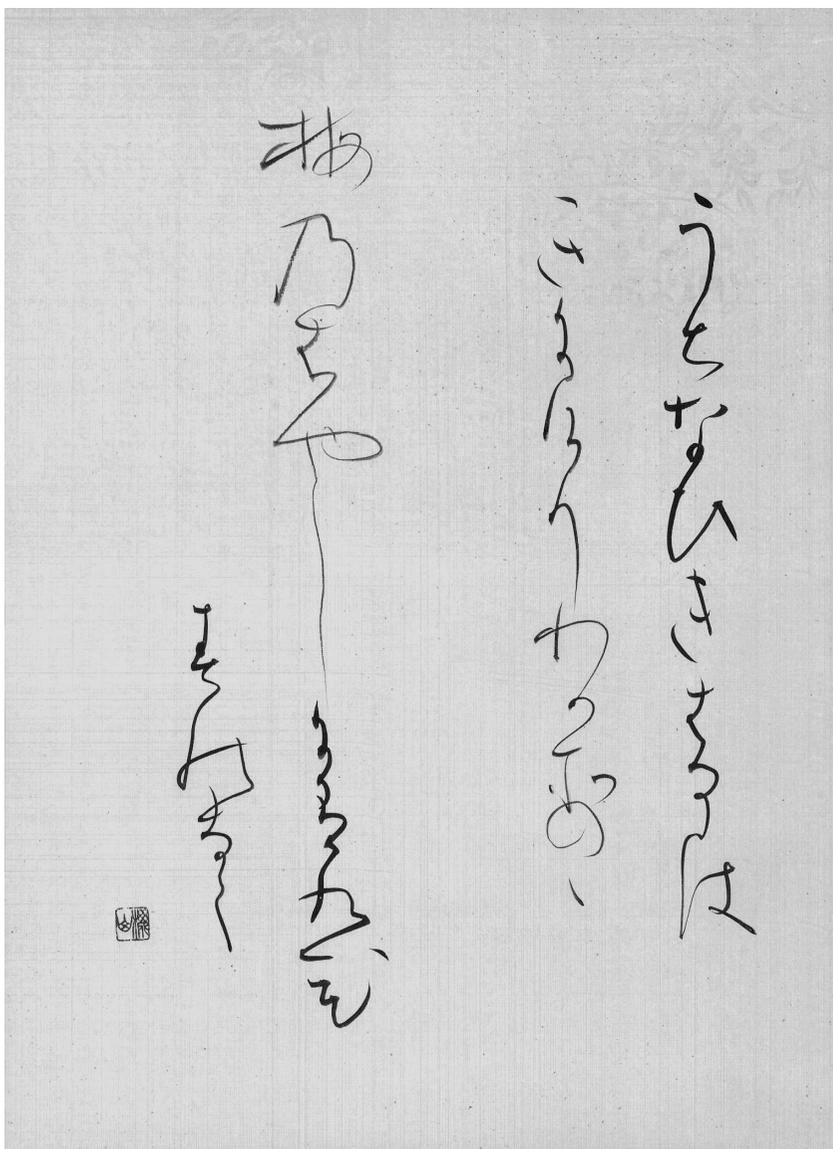
〔出典〕 飯田龍太

〔句意〕 甲斐の山々にはまだ雪が白く残っておりしんと静まりかえっている。あたりには桜の香がただよっている。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

雪山のどこも動かず花にほふ



〔出典〕 良寛

〔歌意〕 (うちなびき) 春がやって来た。わが庭の梅の林には、うぐいすが鳴いている。

打なびき春は来にけりわが園の  
梅の林にうぐいすのなく

一般部毛筆細字課題

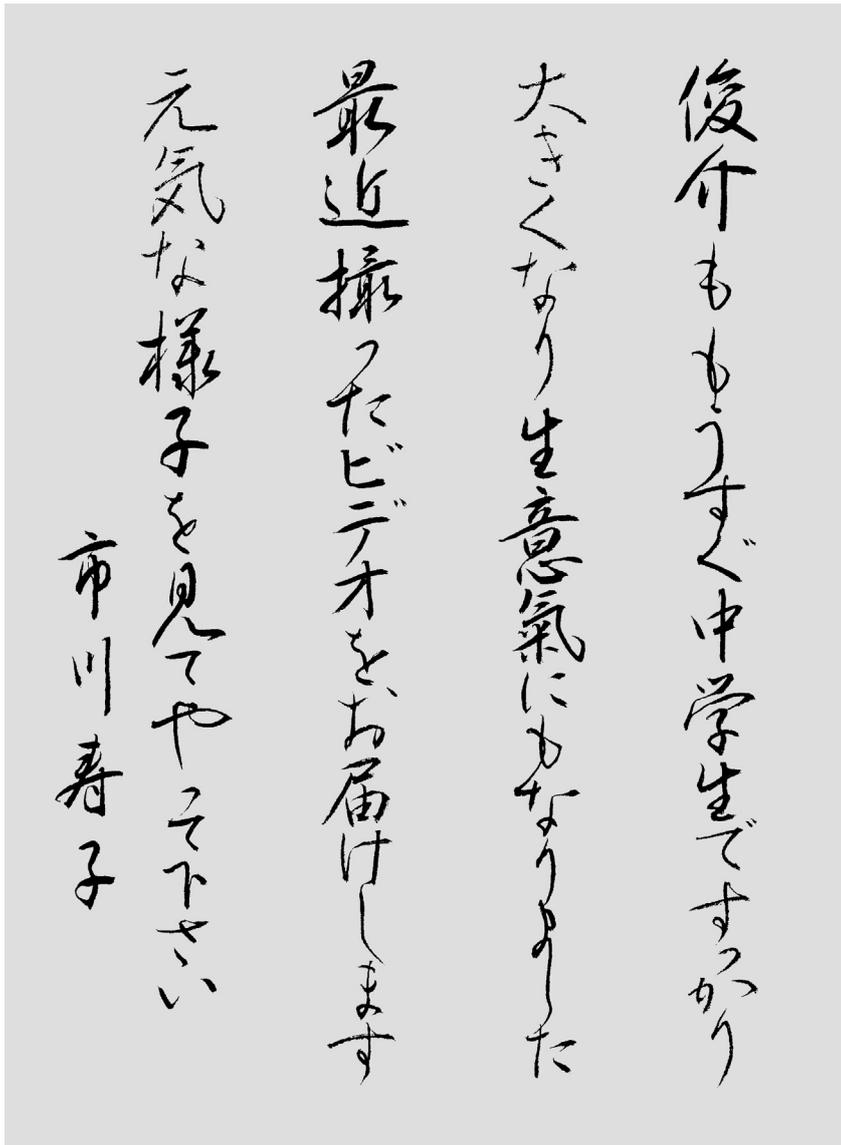
一般部毛筆条幅課題

締切り 二月二十二日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)



荻田蒼仙書

〔大意〕林につもった雪は消えて山は青みをおびて静かに、窓さきには春まだ浅く竹のひびきも寒げである。  
初出品の方へ  
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。



書 華 玲 田 樋

半紙 (334mm×240mm)

〔条幅解説〕古典を入れる〓形を真似ることも大切ですが、作品に入れる位置によって、古典のどの字を入れるかを知る事です。自己満足しないで師先輩に耳を傾けましょう。そして書は線、線は心です。

俊介ももうすぐ中学生ですっかり大きくなり生意気にもなりました最近撮ったビデオをお届けします元気な様子を見てやって下さい

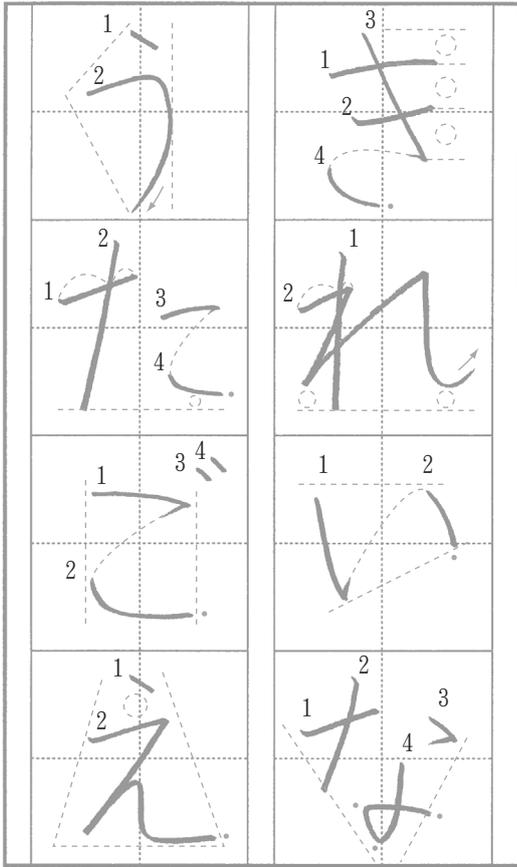
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

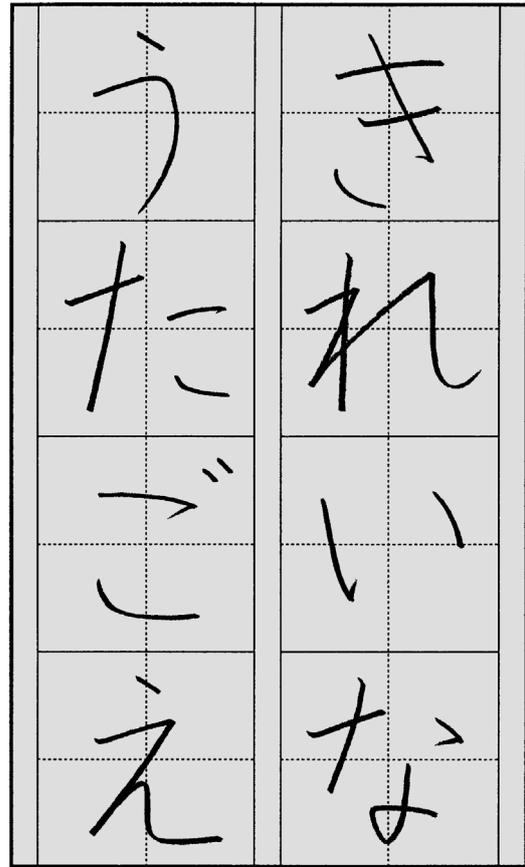
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



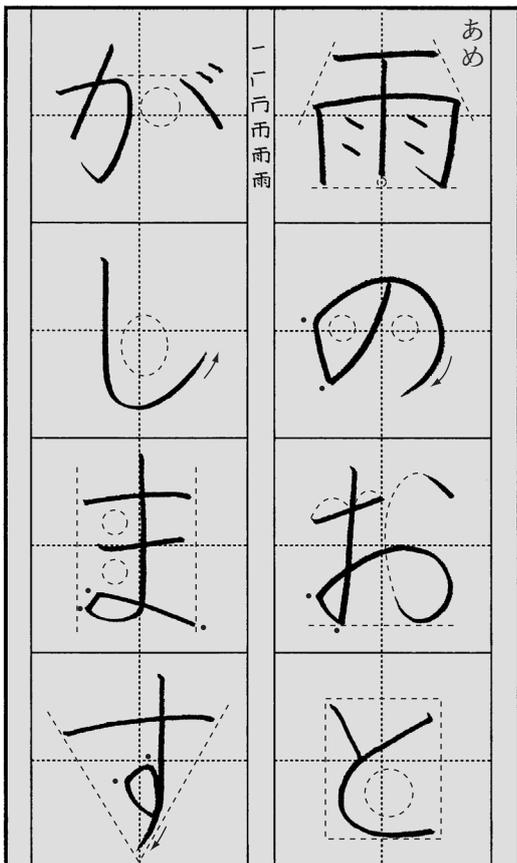
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



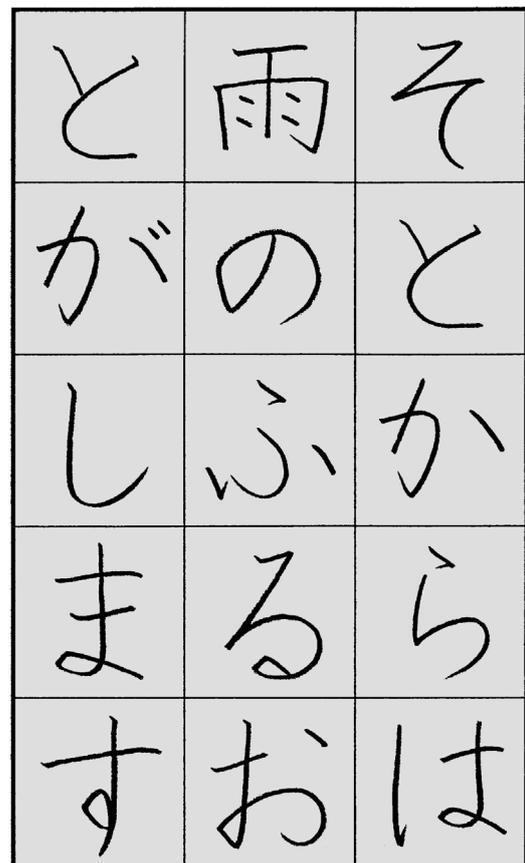
よ  
う  
年

幼年〜小三年まで  
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)

は	市 <small>シ</small>
へ	の
っ	人 <small>ジン</small>
た	口 <small>コウ</small>

新入 1級

口	な	子
は	く	ど
へ	市	も
っ	の	が
た	人	少

小 二 年

準初段以上

の	急 <small>キユウ</small>
雪 <small>ユキ</small>	な
か	坂 <small>さか</small>
き	道 <small>みち</small>

新入 1級

か	な	急
き	坂	で
始	道	き
め	の	け
る	雪	ん

小 三 年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由 (黒色に限る)

温	あ た た	愛	あ い
か		ら	
い		し	
手	て	く	

新入1級

く	妹	ま
温	の	だ
か	愛	小
い	ら	さ
手	し	い

小四年

準初段以上

小四以上 須田一葉書

間	カ ン	下	く だ (り)
料	リ ヨ ウ	列	レ ツ
金	キ ン	車	シ ヤ
調	し ら (へる)	時	ジ

解説 (よく見て習いましょう)

を	時	下
調	間	り
べ	と	列
ま	料	車
す	金	の

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈ようじく〉自由(黒色に限る)

ニ 十 年 科 科	カ 科	一 一 十 年 科 科	シ ヨ ウ 将
ハ ク 学	ガ ク 学	一 一 十 年 科 科	ライ 来
ハ カ 博	ハ カ 博	一 一 十 年 科 科	シ 自
セ 士	セ 士	一 一 十 年 科 科	ゼ ン 然

解説(よく見て習いましょう)

※博士「はくし」とも「はかせ」とも読みます。

小六年

に	科	将
な	学	来
り	の	は
た	博	自
い	士	然

(全員)

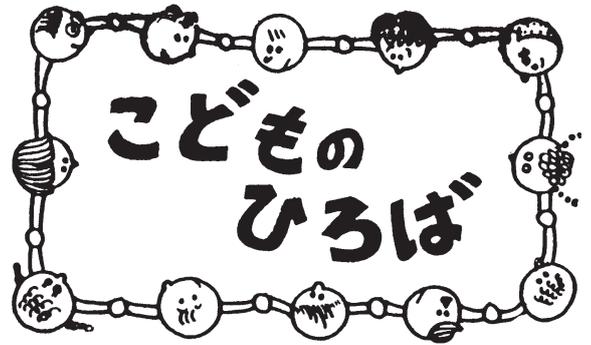
盛	実	冬
り	況	季
上	中	五
が	継	輪
る	で	の

中二・三年 (行書)

工	不	身
夫	便	の
て	を	回
解	創	り
決	意	の

中一年 (行書)

▼小三年以下の課題 しば 柴 た 田 とう 桃 か 花 書



しめきり 2月22日(必着)

ジ	泳 <sup>およ</sup>	ゆ	大 <sup>おお</sup>	水 <sup>すい</sup>
ン	い	っ	き	族 <sup>ぞく</sup>
ベ	で	た	な	館 <sup>かん</sup>
エ	い	り	水 <sup>すい</sup>	の
ザ	る	と	そ	
メ			う	
			で	

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

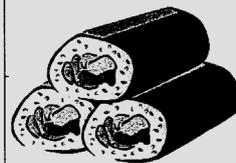
▼小四年以上の課題 まえ 前 そわ 岨 ぎょく 玉 か 華 書

三 <sup>さん</sup>	祖 <sup>そ</sup>	恵 <sup>え</sup>	縁 <sup>えん</sup>	節 <sup>せつ</sup>
人 <sup>にん</sup>	母 <sup>ぼ</sup>	方 <sup>ほう</sup>	起 <sup>ぎ</sup>	分 <sup>ぶん</sup>
で	と	巻 <sup>ま</sup>	の	に
作 <sup>つく</sup>	母 <sup>はは</sup>	き	良 <sup>よ</sup>	食 <sup>た</sup>
っ	と	を	い	べ
た	私 <sup>わたし</sup>			る
				と

◎お手本はえんぴつ使用



◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

人  
口

幼年く小二  
年

玉たま  
樹き  
小しょう  
華か  
書

小二

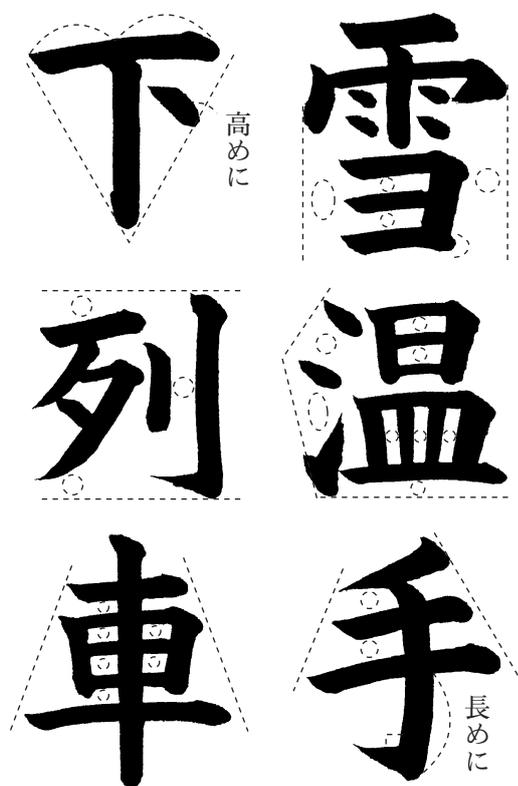
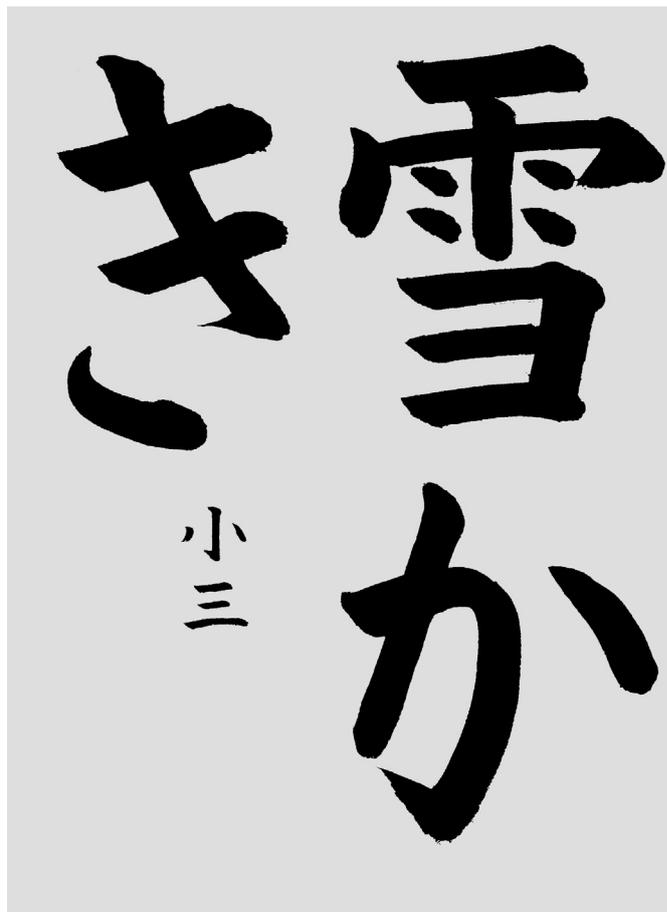
え

中心  
人 え

口 お

小二

お  
と



小三、小五年  
水野の香竹書

中二・三

中実

継況

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六

科自

学然

意

況

継

然

科

創

中一

工創

夫意